

## 低炭素化へ12年ぶり刷新

日本道路建設業協会（道建協、西田義則会長）と日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）は24日、「低炭素（中温化）アスファルト舗装の手引き 令和6年版」をそれぞれのウェブサイトに公表した。製造時や施工時の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を低減するアスファルト混合物の中温化技術について現状や最新動向をまとめた。手引の刷新は2012年度以来12年ぶり。新しい手引を通じて道路舗装業界の低炭素化を後押しする。

技術を含め中温化アスファルト混合物の製造手法を拡充した。中温化の手法は、主に材料による中温化と装置による中温化、材料と装置の併用による中温化の三つがある。このうち、今回は装置と、装置と材料の併用による手法を拡充。フォームド発生装置を使った低炭素化の手法などを盛り込んだ。材料による方法や装置による方法など、各種の方法で製造する中温化混合物の配合方法の記述も加えた。中温化技術は中温化剤や中温化装置などを使い、品質や施工性を確保しながら通常よりも低い温度でアスファルト混合物を製造・施工する技術。道建協による

と、アスファルト舗装工事の工程のうち、製造工程で排出するCO<sub>2</sub>量が全体の4割以上を占めるといふ。道建協は合材の製造温度の低温下がCO<sub>2</sub>排出量削減に最も効果があるとし、手引などを通じて舗装工事での低炭素化を推し進める。

### 道建協 最新技術を紹介

手引では材料や製造装置による中温化技術、中温化アスファルト混合物の配合・設計手順や製造、運搬、施工の管理などを解説して

いる。12年度に公表した「中温化（低炭素）アスファルト舗装の手引き（平成24年度版）」からの主な変更点として、最新の中温化

